

令和3年度の全国学力・学習状況調査における上中学校の調査結果

今年度、文部科学省は、5月27日(木)全国一斉に「全国学力・学習状況調査」を実施しました。教科に関する内容については今年度の結果を分析し、学習状況調査については、昨年度や今年度の市内・奈良県・全国の中学校の数値と比較しながら、本校の今年度の傾向を考察しました。

教科に関する調査結果の概要

国語の読む能力を問う問題の平均正答率が高い反面、話す・聞く能力を問う問題や記述式の問題が、他の観点と比較すると正答率が低いことから考えて、時間が確保できなかったことや記述式の問題に対しての苦手意識があることがうかがえるため、話す・聞く力や与えられた時間の中で問題の意図や内容をしっかりと読み取り、書ける力を身に着けることが今後の課題と考えます。数学については、全般的に理解度は高いですが、資料の活用分野が少し低いので、新指導要領でも取り上げているように、これからの社会でも資料を活用しデータを読み取る力をつけることが重要になってくることを考慮し、今後改善すべき課題だと考えています。

生活について

●基本的な生活習慣(1)(2)(3)

90%以上の生徒が毎日同じぐらいの時刻に起きて朝食を食べていることもみても、生活習慣はしっかり定着しているように思います。けれど、毎日同じぐらいの時刻に寝ているか生徒は、80%で10%程度低くなっています。これは塾などの習い事や宿題等で日によって寝る時間が変わっているのではないかと考えられます。

●コロナ禍での生活について(64)(65)(66)(67)

昨年度休業中の過ごし方についてはすべて平均を上回っており、生徒たちが規則正しい生活を送り、計画的に学習し、困ったときには友達や家族に質問で来ていた生徒が多かったため、比較的安定した生活を送ることができていたと考えます。

●携帯電話やスマートフォン・テレビやゲームを行う上での家庭での約束や使用時間(4)(5)

携帯等の使い方の約束を守れている割合は、市内中学生の平均と比較すると4%ほど高く、テレビゲーム等の使用時間が2時間より少ない割合も65.5%です。ただし、市内・県・全国の中学生よりも割合は少ないとはいえ、平日に3時間以上ゲーム等をしている生徒が17.5%いることについては、時間の使い方や情報リテラシー、情報モラルについてさらに学習していく機会を増やし、学校と家庭がもっと連携していく必要があると考えています。

行動や考え方について

●自己肯定感(6)(7)(8)(9)

「自分に良いところがあると思う」と答えた生徒は、71.9%で昨年度よりも1.2%減っています。ただ、「当てはまらない」と答えた生徒も8.3%と昨年度よりも1.7%減ったことから考えて、昨年度の反省を踏まえ、学校としても引き続き取り組みを続けていくことが必要だと考えます。「将来の夢や目標を持っている」65.4%、「自分でやると決めたことは、やり遂げるようにしている」79.7%「難しいことでも失敗を恐れなくて挑戦している」60.3%の項目については、全国平均よりも3~6%低くなっていることを踏まえ、レジリエンス(困難な状況に、しなやかに適応する力)を身につけ、達成感を感じる経験を増やし、自己肯定感・自己有用感を高める機会を増やしていきたいと考えています。

●人権意識(10)(11)(12)

「人が困っているとき助けている」と答えた生徒は 85.7%で、96.8%の生徒が「いじめはどんな理由があってもいけない」ことだと考えています。ただ、今もいじめ事案はなくなっておりません。引き続き生徒達の声に耳を傾け、全員がいじめを許さないと考えるように取り組んでいきます。98.2%の生徒が「人に役立つ人間になりたい」と考えていることは、これからの社会を支えていく人材として生徒たちが成長していることを表していると考えています。

●学校生活の充実(13)(14)(15)(16)

「学校に行くのは楽しい」78.8%。「自分の思っていることや感じていることをきちんと言葉で表せる」69.1%、「自分と違う意見について考えるのは楽しい」71.9%、「友達と協力することが楽しい」89.9%で、周りの意見に流されず自分の意見や考えを伝えることができる生徒が、全国平均と比べてすべて低くなっています。これらの項目は学校生活を楽しみと思えるための重要な要因なので、いろんな意見を自由に話せ、違った意見に耳を傾けることができる生徒や集団の育成をすすめていくべきだと考えています。

学習について

●学習時間(17)(18)(19)(20)(21)

計画を立てて学習している生徒は 59.9%で全国平均と比較すると少ないですが、学習時間は平日では 2 時間以上が 74.2%、休みの日は 2 時間以上が 89.5%、3 時間以上は 50.2%と市内や全国の平均と比較すると 20%の差があり、学習に対して一生懸命取り組んでいる様子がうかがえます。ただ、学習に対して苦手意識を持つ生徒や取り組み方がわからない生徒などに対する支援は、学校サポーターとの協力も得ながら放課後学習など支援の場を広げていきたいと考えています。

●ICT活用(26)(27)(28)(29)

昨年度 3 学期から生駒市一斉に、chromebook が支給され積極的に授業等で活用しているため、使用頻度は全国と比較しても 30%以上高く、調べものなどでも積極的に活用していることがわかります。ただ、ICT が勉強に役立つと考えている生徒の割合は全国と比較してやや低く、勉強のために使用している時間が 30 分より少ない生徒が半数を占めています。使い方や時間の割り振りなども工夫しながら取り組んでいると考えられます。

●学習活動(31)(32)(33)(34)(35)(36)(37)(38)(39)(40)(41)(42)(43)

自ら課題を見つけ、解決し取り組んだ自分の考えを発表する際に自分なりに工夫したり、他の人の意見を聞きながら取り組むことは、全国や市内と比較しても高い値を示していますが、学習について理解を健闘し、次につなげたりすることができている割合は低くなっています。さまざまな教科でレポート等を活用し自分の考えをまとめたりすることは多いですが、コロナ禍の影響で以前に比べると総合的な時間などを使って調べたことをまとめたり発表したりする機会が減っています。学級活動においても、以前に比べてお互いの意見を取り入れ、活発な話し合いを進めることが難しく、自分なりに考えている生徒の割合は、全国と比較すると低くなっています。

地域とのつながりについて

●地域貢献(24)(25)

地域行事の参加は、今年度もさまざまな地域行事がコロナ禍の影響で中止になっていることが影響し、市内・県内・全国ともに参加している生徒は昨年度と比較すると低くなっており、本校も 48.8%も同様です。「地域や社会をよくするために何をすべきか考えたことがある」生徒は 34.1%と全国平均と比較すると 10%近く低く、地域性や大きな行事の有無に影響することも考えられますが、コミュニティースクール等も活用しながら、地域に積極的に参加できる機会を増やし、貢献を考える機会を増やしていきたいと考えています。